

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900018		
法人名	有限会社 松風		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	千葉県香取市津宮1932-1		
自己評価作成日	平成22年1月17日	評価結果市町村受理日	平成22年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に週1回のグループホーム開放日を設け、多くの方に認知症の方の理解をしていただき、地域や行政機関の方々とのかかわりを多く持つようにしている。また、苑内および苑外での行事として、「ガーデンパーティー」または「交流会」と称して家族や地域の方々をお招きして楽しく会食している。それらの行事を写真や文章にまとめて家族に配布している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした田園風景の中にあり、日当たりの良いリビングと食堂がそれぞれ広いスペースで1フロアに配置され、高い天井がログハウス風で広々とした心地よい空間を作り出しています。リビングにはピアノが置かれて家族やボランティアによる演奏が時々行われています。1階ベランダは出入りが自由で日向ぼっこができ、園庭では利用者と職員が一緒になって花壇や家庭菜園を作っています。
ご夫婦により運営されているので家庭的な雰囲気があり、利用者の満足度が高いことが窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族、ご近所様からいただいた「グループホーム松風さん お願いしますよ 地域のために」等の標語を理念として心に置き介護を実践している。また愛と尊厳の理念は常に心に留めて利用者として接している。	法人としての理念の他に事業所として標語を募集して20作の中から選抜した標語を掲示し、月1回の職員会議で経営層と職員で理念や標語の実践について話し合っています。	選抜した標語を当該事業所の理念として職員、家族、ご近所その他関係者に明示することが望ましいと思われます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、地域の清掃や総会、消防地の避難訓練等に参加しています。	町内会には加入しており、年1回町内会総会と区長会総会には参加しています。町内会が行う草取り清掃には利用者と職員が参加しています。地域の方々に週1回のグループホーム開放日を設けていますがあまり参加がないとの事です。	近隣住民が事業所に気軽に来られるように、利用者と住民が触れ合う機会を作るなど、ホームからのより一層積極的なアプローチが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の席にて質問にお答えする。地域で認知症介護に疲れてしまった介護者のための緊急受け入れ先として開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会からは「松風さんに安心してお任せしています。」との賛辞を頂き、民生委員からは「地域に働きかけて欲しい。」と望まれ、週1回の開放日を設けた。	運営推進会議は4カ月に1回、年3回行われており、出席者は家族代表、民生委員、区長会代表、市職員又は地域包括センター職員、事業所管理者、看護師等9名が参加して活発な意見交換をしています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市役所へまめに通い、担当者との情報交換している。また、開放日の公告も介護福祉課受付に置いていただいている。	経営層が行政OBという事もあって、市町村との連携は強いものがあり、利用者状況、家族の状況を毎週報告し情報交換しています。また行政側から各種の受入施設としての要望があり都度対応しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。その他身体拘束と考えられる行為があった場合には、厳重注意をして再発防止に努めている。	内部勉強会を年3回行い職員に周知させています。カギをかけないケアとして、居室・玄関・ベランダ出入口にはカギをかけず、見守りと出入りが分かる鈴で対応しています。転落防止のベッド柵については家族と話し合って対応しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	要介護施設従事者等による高齢者虐待防止のための事例集を朝礼時に読み上げ、虐待に関する知識を付けるとともに、職員間で指摘しあい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は自発的に研修を受け、自立支援のための介護を学び事業所内で実践している。また成年後見人志願者と接することで知識を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族からは、随時話を伺い、ケースに応じた柔軟な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けるとともに、利用者やご家族が本音を吐露できるように職員教育に努めている。	利用者の意見は日々のカンファレンスノートに書き込み職員会議で検討しています。家族の意見は運営推進会議や意見箱で得られる家族の意見や、外部評価の利用者アンケートを基に月1回の職員会議で話し合っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンスや月1回の職員会議において、管理者はより具体的な意見や提案を聞き、職員と議論している。	月1回の職員会議で管理者と職員で運営に関する様々な意見交換をしています。標語募集の方法や掲示に関すること、利用者の重度化に対する各種の対応方法などについて、職員の提案を含めて検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を鑑みて給与に反映させている。時間給職員の要望への配慮、月給職員の能力に応じた係りの分担等で職場環境・条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修は積極的に受けるよう職員に勧めている。法人内では、消防署員を招いての普通救命講習やレクリエーション研修等をデイとグループ合同で行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所等が主催する勉強会には管理者・職員ともに参加している。またそこにおいて同業者間での情報交換・意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者に対しては、本人とご家族から趣味・嗜好・生活歴等を聞き、様々な角度から全人的に捉え、個別的な配慮を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・ご家族ともに不安を抱えているため、相手の立場で現状を考え、共感的な態度で話を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安が多いご家族においては、より適切なサービスを選択することが難しい場合もある。真のニーズを見極める取り組みをしたうえで、多角的なサービス提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを引き出し、食事や運動や創作活動をともにし職員とともに毎日を楽しめるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内外の行事にご家族を誘い、職員とともに本人を支えていることへの理解と支援をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用していた方も多いため、デイで行われる行事にはグループの利用者も参加している。また、居宅で付き合いのあった老人会を招いて歌や踊りを一緒に楽しんでいる。	車で3分の所にある同一法人のデイサービスで、コンサートやクリスマス会、納涼会などの催し物がある時には、出来るだけ全員で参加しています。また友人がホームを訪れるなど、馴染みの関係は自然な形で続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を考慮して、食堂での座席や日中くつろぐソファでの座席を決めている。そのため、夜間以外は利用者全てがホールで過ごす環境が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族宛に手紙やイベントのお誘いをしている。街中で会ったときには談笑できる関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの尊厳を尊重できるよう、きめ細かな目配り・気配りをし、本人の思いや希望を大切にしている。	物への執着が強く、共同生活を送るのが難しい人にも、本人への配慮や、周囲とのバランスを考慮しながら場面ごとに様々な工夫をし、個々の思いがぶつからないように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	健康状態に配慮した上で、各人の好む食事内容・入浴時間・起床時間・デイサービスの利用等柔軟に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態と要望を把握し、生活リハビリテーション・レクリエーションを織り交ぜ、その日その日を大切に過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの要望やご家族の希望を聞き、より本人らしい自立支援に向けた働きかけが出来るよう、日々職員間で意見を出し合っている。	計画作成担当者を中心に看護師、介護士、家族が意見を出し合い、計画に反映しています。中でも職員の日々のきめ細かな観察は、本人の意向を汲み取る上で大きな助けになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りでその日の状態を把握し、日々のカンファレンスでケアの振り返りをしながら、ケアの工夫を考えて実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の病気に対し、診断後に家族と相談してセカンドオピニオンを求めることもしている。地域・家族の要望が差し迫った問題の時にはその時々に応じた適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや老人会、コーラスグループ、理容師等様々な方に協力していただき、漫然としない毎日となるよう工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の往診に加え、緊急時の往診、死亡診断に至るまで、かかりつけ医と連絡を密にし、適切な医療が受けられる体制を整えている。	本人・家族の意向で、以前から通っていた病院に継続して通う人もおり、職員が月に1度のペースで対応しています。また緊急時、夜間でもすぐにホームのかかりつけ医に連絡が取れるようになっており、連携がよくとれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は同じチームとして行動し、全ての問題を共有し、一般状態が急変した際には看護師に相談の上、適切な医療機関を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院後すぐにケアマネが病院関係者の話を聞き、可能な限り本人と家族の意向に沿った治療が受けられるように話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時における事前確認依頼書を作成し、全てのご家族に記入していただき、双方で意思確認している。また急変時には職員・家族・かかりつけ医が連絡を取り合い支援している。	重度化や終末期に向けてのあり方は、職員全員が前向きに取り組み、考えています。看取りについての勉強も積極的に行なっていく方針です。 現状は家族の同意を得て、医師との連携により自然な形で看取りが行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全てが普通救命講習を受け心肺蘇生法やAED使用方法を学び、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	香取市地域包括支援センター主催の災害対策勉強会に出席している。	通報訓練を消防署と連携して年1回行っており、マニュアルも整備されています。消火器の点検は年2回専門業者が行っています。非常用備蓄は倉庫に保管され、玄関口にも非常用食料や水、コップを入れたリュックサック2セットが用意されています。	今後避難誘導訓練を行う予定との事ですが、同時に消火器の取り扱いについても管理者、全職員が実地訓練出来るような計画とすることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し愛と尊厳を尊重し、言葉かけについては職員一同日々気を配り、お互い指摘しあうようにしている。	「居室は利用者の家」という考え方から、入室時は必ずノックし、居室を掃除する時には本人の了解を得てから行なっています。職員の利用者への対応から、人格を尊重した言葉かけや、羞恥心への配慮が見てとれます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・排泄等全ての動作において、本人の希望をできる限り叶えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日その時を大切に考え、本人の状態やペースに合わせた支援が出来るよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々それぞれ望む身だしなみが違うので、9人9色の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL上可能な方とは配膳・下膳・テーブル拭き等をともに行っている。おやつ作りは利用者と職員が楽しみながらともに行っている。	日勤の職員が調理を担当し、利用者にもできることは一緒に行なっています。食事は彩りや栄養のバランスを考え、手間をかけ真心をこめて調理していることが伝わってきます。出来るだけ自分で食べることを基本的に必要な時に介助しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を表に記入して常に気を配っている。また、摂取量が減少気味の時には個々に応じた対策を考え実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後介助で口腔ケアを行うのは一人のみ。自分でできる方は本人に任せている。総義歯の方は就寝前に洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレを利用する方、日中リハビリパンツ夜間オムツの方等個々に応じた自立支援を行っている。	24時間の排泄チェック表があり、個々のパターンを把握して対応しています。寝たきりでもトイレで排泄したいと強い思いを持つ人を、職員2人でサポートし、現在ポータブルトイレに自力で移動できるまでに機能が回復しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、便秘薬と整腸薬を選択し、夏と冬では飲食物を変化させ、運動を促して必要なケア(腰背部温罨法)により排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最初に入浴したい方、ゆっくり浸かりたい方、ぬるめが好きの方等個々の好みに応じた支援をしている。	2日に1度のペースで入浴しています。出来るだけ本人の希望に添うよう柔軟に対応しており、入浴が楽しい時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせた就寝時間を大切に、安眠促進のため就寝前のDVD鑑賞を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を常勤職員として配置し、用法や用量について職員全てが理解できるよう説明している。また個々に応じた服薬支援を行い、一般状態の変化に気づいたら看護師に連絡するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性では日曜大工、家事を得意とする方では調理や配膳、元教師では監督・指導、利口だと自負される方は、かるたや百人一種等個性を捉えた働きかけを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた年中行事を計画し、月に1回は外食を含む外出を行っている。晴天時には戸外を散歩し、地域の方と話をしたり花や作物をいただいたりしている。	天気の良い日には出来るだけ散歩に出かけています。月に1度はお寿司などの外食を楽しみ、季節には花見を兼ねたドライブやぶどう狩りなどを計画し支援しています。外出の時の利用者の明るい表情が職員の励みになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、自己管理できる方には財布を携帯していただいている。また金銭管理は困難だが安心材料として必要な方には、バッグや財布を携帯していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際には読んで差し上げ、電話は、ご家族の許す範囲で必要に応じて掛けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔・整頓を心掛け、心地よい環境となるよう気配りしている。また施設内でも季節が感じられるよう、職員とともに季節感のある壁面作りをしている。	リビング、食堂は天井が高く、ログ小屋風の明るく風通しの良い心地よい雰囲気を出しています。リビングには大型テレビやソファが置かれ、ゆったりしています。またピアノが置かれ家族やボランティアが弾いて利用者を楽しませています。花壇の花を食堂に飾ったり、壁には行事会の写真を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みの居場所はそれぞれなので、共同生活が円満に出来るよう、人間関係を含めたくつろぎの居場所作りへの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入るのはほぼ夜間だけであるが、安心して眠れるよう、ご家族・本人とともに考えながら居室作りをしている。	居室は畳室の4室も含め、ベッドをはじめ自宅からの持ち込みは自由になっています。利用者個人の写真が入ったカレンダーを壁に貼ってあります。利用者が大工経験を活かし板で作品を作ったりしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員がチームとして自立支援に向けた働きかけをしている。その際個々に応じた安心・安全・安楽への配慮をしている。		